

第2回
志木市民会館及び志木市民体育館
再整備基本計画策定検討委員会

令和3年3月24日

□ 目 次 □

1. 市民会館・市民体育館の再整備の基本方針について P 1
(1) 複合化施設整備の基本理念 P 1
(2) 複合化施設の整備方針 P 3
2. 市民会館・市民体育館の利用状況について P 4
(1) 各施設が備えている現状の諸室について P 4
(2) 市民会館の利用状況 P 5
(3) 市民体育館の利用状況 P 8
3. 市民会館・市民体育館の複合化に向けて P 10
(1) 新施設の諸室の考え方について P 10
(2) 新施設での諸室の確保イメージ P 12
4. 次回の議題について P 15
(1) 新施設の諸室のイメージ P 15
(2) 今後の検討委員会 P 15

1. 市民会館・市民体育館の再整備の基本方針

(1) 複合化施設整備の基本理念

- ▶ 市民会館・市民体育館の複合化施設の整備は、多様化する市民ニーズに対応した機能を備えるとともに災害発生時の防災施設として活用することが可能になることに加え、財政負担を軽減することが期待できる。
- ▶ こうした意義や上位関連計画における方向性や本市の特徴を踏まえて、求められる役割や、整備にあたって配慮する事項は次のように整理される。

【複合化施設に求められる役割や整備にあたって配慮すべき事項】

小さなまちの強みを活かす

- ▶ 本市は全国でも6番目に小さなまちであり、誰もが徒歩や自転車で簡単に訪れることができ、まちの強みを活かし、立ち寄りやすく、利用しやすい施設が必要。

多様な世代のニーズに対応

- ▶ 団塊世代とその子どもの世代が多いのが本市の特徴だが、今後の人口構成の変化により多様化する市民ニーズに柔軟に対応できる施設が必要。

まちの魅力を高める

- ▶ 複合化施設は、まちなかの交流や活動の拠点。市民が集い、憩い、活動することによって生まれる地域の活力を活かせる魅力ある施設づくりが必要。

まちの自然環境に配慮する

- ▶ まちを流れる3本の河川は豊かな自然環境を育む一方で、自然災害をもたらす恐れがあるため、自然環境や自然災害に配慮した施設とすることが必要。

財政負担を軽減する

- ▶ 財政負担の軽減を図るため、ライフサイクルコストを意識しながら身の丈に合った施設とすることが必要。

1. 市民会館・市民体育館の再整備の基本方針

➤ 求められる役割や配慮すべき事項を踏まえ、市民会館・市民体育館の複合化施設の整備における基本理念を次のように設定

【求められる役割や配慮すべき事項】

小さなまちの
強みを活かす

多様な世代の
ニーズに対応

まちの魅力を
高める

まちの自然環
境に配慮する

財政負担を軽
減する

基本理念

多様な市民ニーズに応える機能を備え、新たなまちの賑わいを創出する市民会館・市民体育館複合施設の整備を目指す

市の上位計画で市民会館用地周辺は、

- ・ 現在見直しを進めている都市計画マスタープランでは、市役所及びいろは親水公園周辺と本町1丁目地域を行政サービスと憩いの拠点と位置づけ、まちの賑わいを創出する。
- ・ 中心市街地活性化基本計画では、志木駅東口からいろは親水公園までの賑わいを創出する。

1. 市民会館・市民体育館の再整備の基本方針

(2) 複合化施設の整備方針

- 求められる役割や配慮すべき事項を踏まえつつ、新たな施設の建設経費や今後の維持管理のコストを意識しながら、市民会館・市民体育館の複合化施設における整備方針を次のように設定

方針1 小さなまちに あった利用し やすい施設の 整備

- 徒歩や自転車などでも、誰もが気軽に施設に立ち寄り、利用できる環境にあるのは小さなまちの強み。
- このため、小さなまちの強みを活かし、誰もが立ち寄りやすく、利用しやすい施設であるとともに、施設のライフサイクルコストを意識したまちの身の丈に合った施設整備を進める。

方針2 多様なニーズ に対応し、利 用者に配慮し た施設の整備

- 本市の人口構成は、団塊世代と団塊ジュニア世代が多いことが特徴だが、今後の少子高齢化の進行により人口構成も大きく変化していくことが見込まれる。
- こうした世代ニーズの変化、また、余暇活動などにおいて多様化する市民ニーズに柔軟に対応した機能を備えるとともに、利用者の視点に立って、誰もが快適に利用できるユニバーサルデザインに対応した施設整備を進める。

方針3 まちに新たな 賑わいを創出 する施設の 整備

- 複合化施設は、音楽鑑賞やスポーツ、学習など様々な活動の中心となるとともに、市民が集い交流し、新たな文化を生み出し、また、情報を発信する場となる。
- このような施設がまちなかにある利点を活かし、多様な目的を持った来訪者が集うことにより生まれる賑わいをまち全体に広げる拠点となるような施設整備を進める。

方針4 災害や自然環 境に配慮した 施設の整備

- 本市には、荒川や新河岸川、柳瀬川の3つの河川が流れている。これらの河川は自然環境を育む一方で大雨による浸水被害など自然災害をもたらす恐れがある。
- このため災害時における防災拠点としての機能に対応するとともに、舟運で栄えた市の歴史や河川沿いの自然環境、また、街並み景観に配慮した施設整備を進める。

2. 市民会館・市民体育館の利用状況

(1) 各施設が備えている現状の諸室について

市民会館

▶ ホール棟には定員788名のホールのほかホワイエや楽屋等の諸室を備え、管理棟には、会議室11室のほか、厨房や事務室を備えている。

市民体育館

▶ 競技場（バレーボールコート3面分）と観客席約600席、トレーニング室などを有し、武道場として剣道場、柔道場、弓道場を備えている。

これらに附帯して、ロッカー室、シャワー室が、フロア別に複数設けられている。

【市民会館】

		現施設の面積 (㎡)			現施設の面積 (㎡)
ホール棟		2,962	管理棟		2,371
1 F	客席	467	1 F	事務室	79
	ホワイエ	406		旧喫茶室(厨房)	167
	舞台	345		会議室101~104	221
	楽屋1~3	71	2 F	会議室201~205	430
3 F	照明室	42	3 F	備品室	96
	予備室	32		会議室301~302	148
	調光室	12	その他共有部		1,230
	映写室	16			
地階	ミキサー室	12			
	機械室	137			
	倉庫	181			
	変電室他	119			
その他共有部		1,122			

合計 5,334

【市民体育館】

		現施設の面積 (㎡)
体育館		
1 F 体育館棟	エントランスホール	337
	トレーニングルーム	228
	エクササイズルーム	194
	卓球場	300
	ロッカー室	100
	シャワー室	23
	更衣室	14
	会議室(第一・第二)	240
	事務室	77
	医務室	19
1 F 武道館棟	剣道場	324
	ロッカー室	51
	シャワー室	26
2 F 体育館棟	競技場	1,512
	多目的ホール	302
	器具庫	216
	保育室	22
2 F 武道館棟	役員室兼放送室	54
	柔道場	272
	ロッカー室	40
	シャワー室	20
3 F	観客席	336
3 F 武道館棟	弓道場	241
	師範席	13
	ロッカー室	10
その他共有部		1,017

合計 5,988

図 市民会館及び市民体育館の備えている諸室面積一覧

2. 市民会館・市民体育館の利用状況

(2) 市民会館の利用状況 (①利用者数)

- ▶ 市民会館の利用者数は、約17万人/年となっている。月別にみると、H31. 7月の28,765人が最も多く、次いで、H31. 11月(25,565人)、H30. 11月、H30. 7月の順となっている。
- ▶ 利用の最も少ないH30. 8月では、ホールのイベント使用が少なく、16件であったことから利用者数が約7,102人となっている。
- ▶ 管理棟は、会議等で約8,700人/月以上利用されており、多くの会議が開催されている。

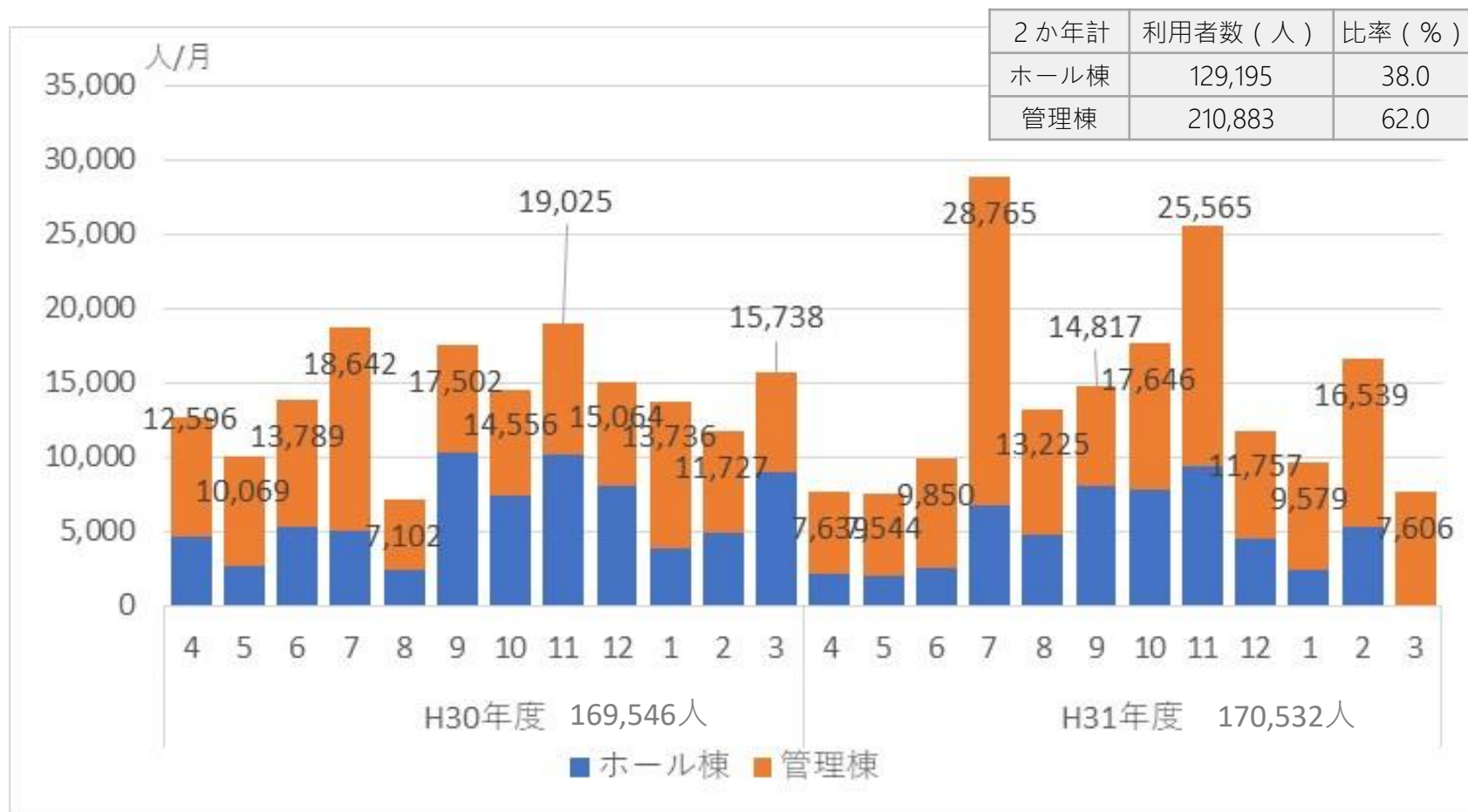


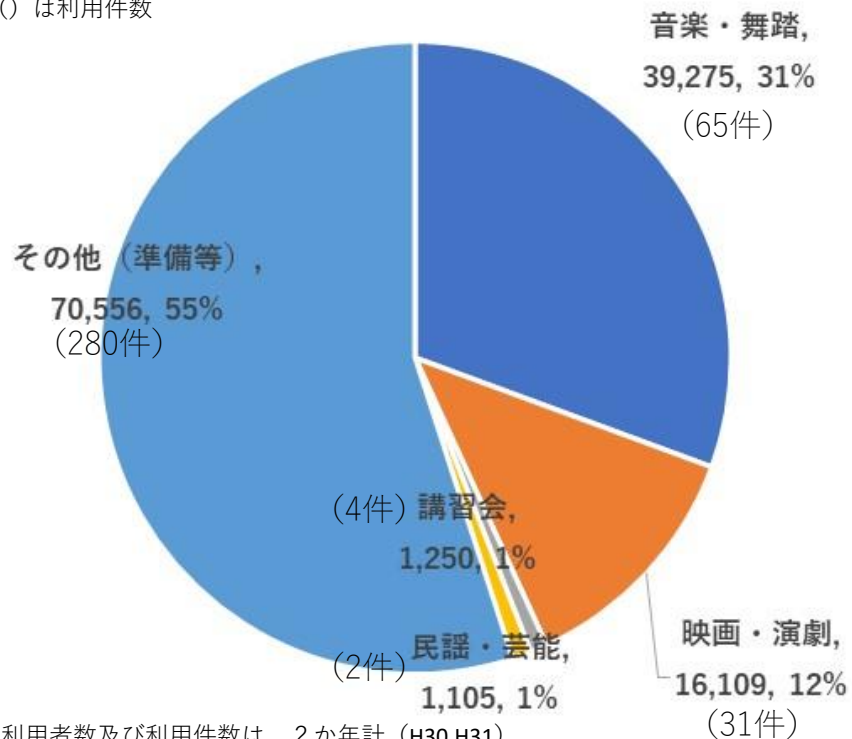
図 市民会館の月別利用者数 (平成30年度、平成31年度)

2. 市民会館・市民体育館の利用状況

(2) 市民会館の利用状況 (②利用内容)

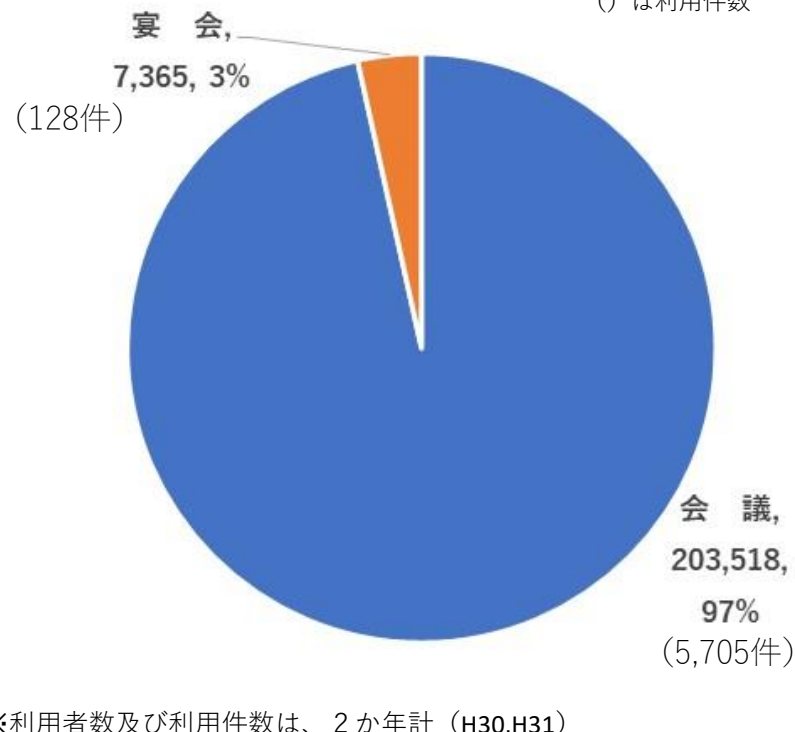
- ▶ 市民会館の利用について、利用内容別にみると、ホール棟でのイベントについては、音楽・舞踏関連が最も多く31%、次いで映画、演劇等が12%などとなっている。(その他(準備等)を除く)
- ▶ ホールでの催事にあたってはリハーサル・準備等でホールを利用することも多いため、それらを含めた複数日の利用が多いと推察される。
- ▶ 管理棟については、ほとんどが会議利用となっているが、一部、供食を含む宴会等も実施されている。

数字は利用者数、構成比
() は利用件数



※利用者数及び利用件数は、2か年計(H30,H31)

数字は利用者数、構成比
() は利用件数



※利用者数及び利用件数は、2か年計(H30,H31)

図 市民会館利用者の利用内容内訳 (ホール棟：左 管理棟：右)

2. 市民会館・市民体育館の利用状況

(2) 市民会館の利用状況 (③利用件数及び1回あたりの規模)

- ▶ ホールの月別利用件数をみると、開催準備等を含めて、利用の少ない月で8件、多い月は26件となっており、一か月あたり約16件となっている。月別のイベント件数、利用者数からイベントの開催規模（1件当たり利用者数 開催準備除）をみると、平均規模が、570人/件となるが、客席定員を超える1,000人以上となる月もあり、複数回の公演等を行っていることが伺える。
- ▶ また、複数回公演の実施を想定すれば、イベントの平均規模は、上記の平均規模を下回ることが想定され、500人程度となっていることも想定される。
- ▶ 一方、会議室の1日当たりの利用件数は、平均で約8件程度、多い月でも13件/日程度となっており、1件当たりの利用者数の規模も20~40人が主となっている。

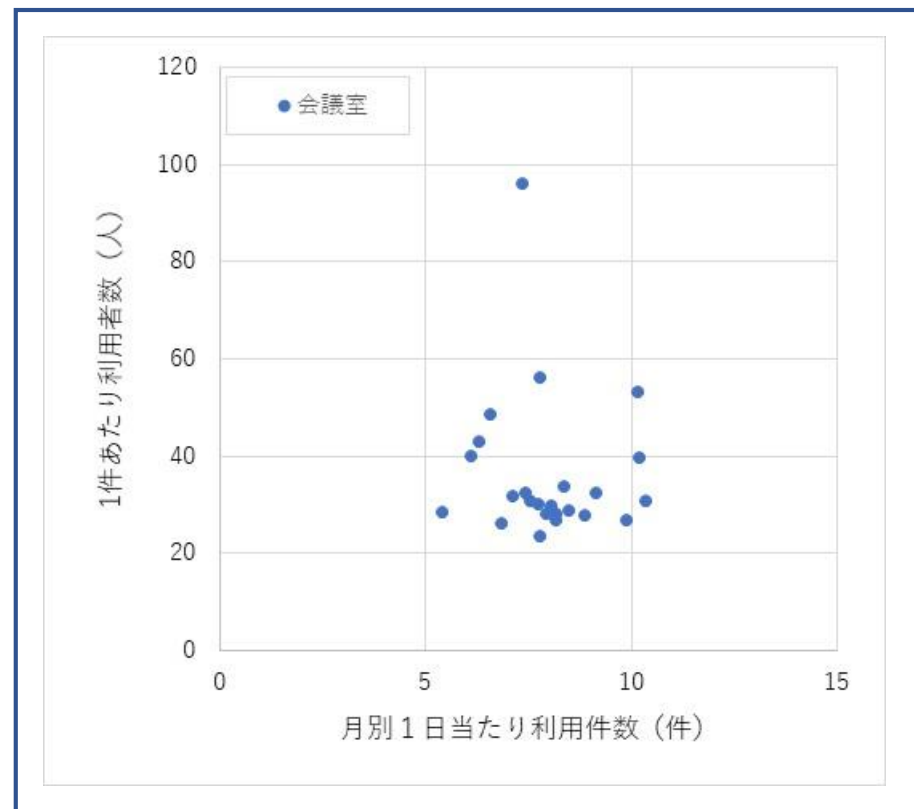
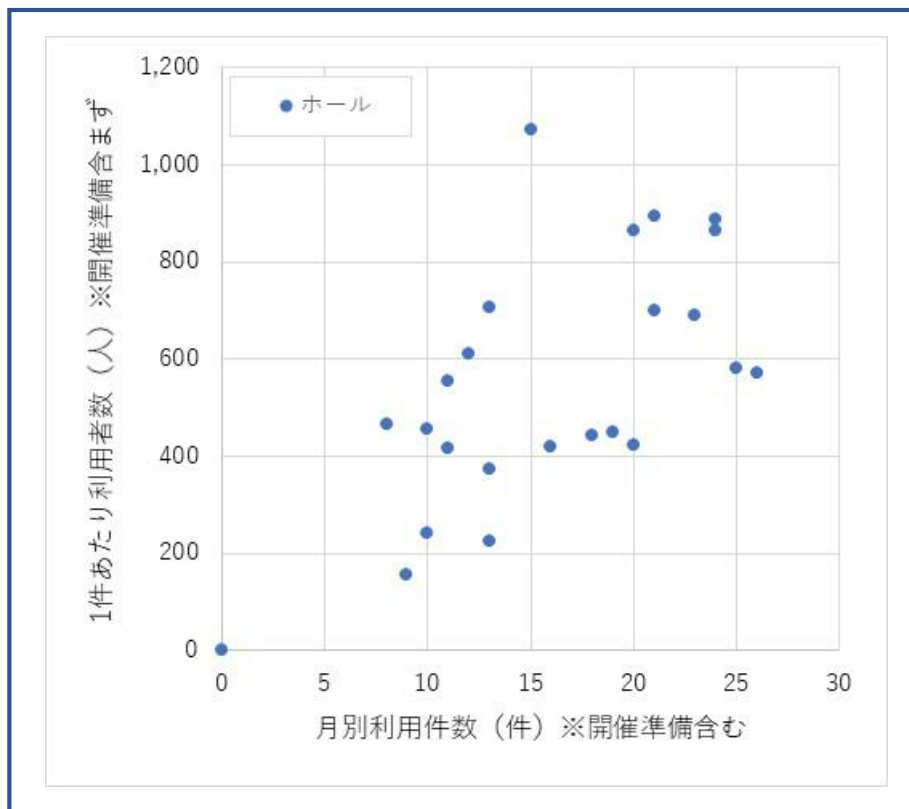


図 市民会館の利用状況の内訳 (ホール：左 会議室：右)

2. 市民会館・市民体育館の利用状況

(3) 市民体育館の利用状況 (①利用者数)

- ▶ 市民体育館の利用者数は、約20.9～23.2万人／年となっている。月別にみると、H30.4月の21,858人が最も多く、次いで、H30.6月(21,658人)R01.9月、H30.7月の順となっている。
- ▶ 新型コロナウイルス感染拡大の影響で施設を休館したR02.3月以外では、15,000人/月以上の恒常的な利用がみられる。
- ▶ 利用状況としては、施設の特徴から、団体利用の方が約68%と個人利用よりも多くなっている。

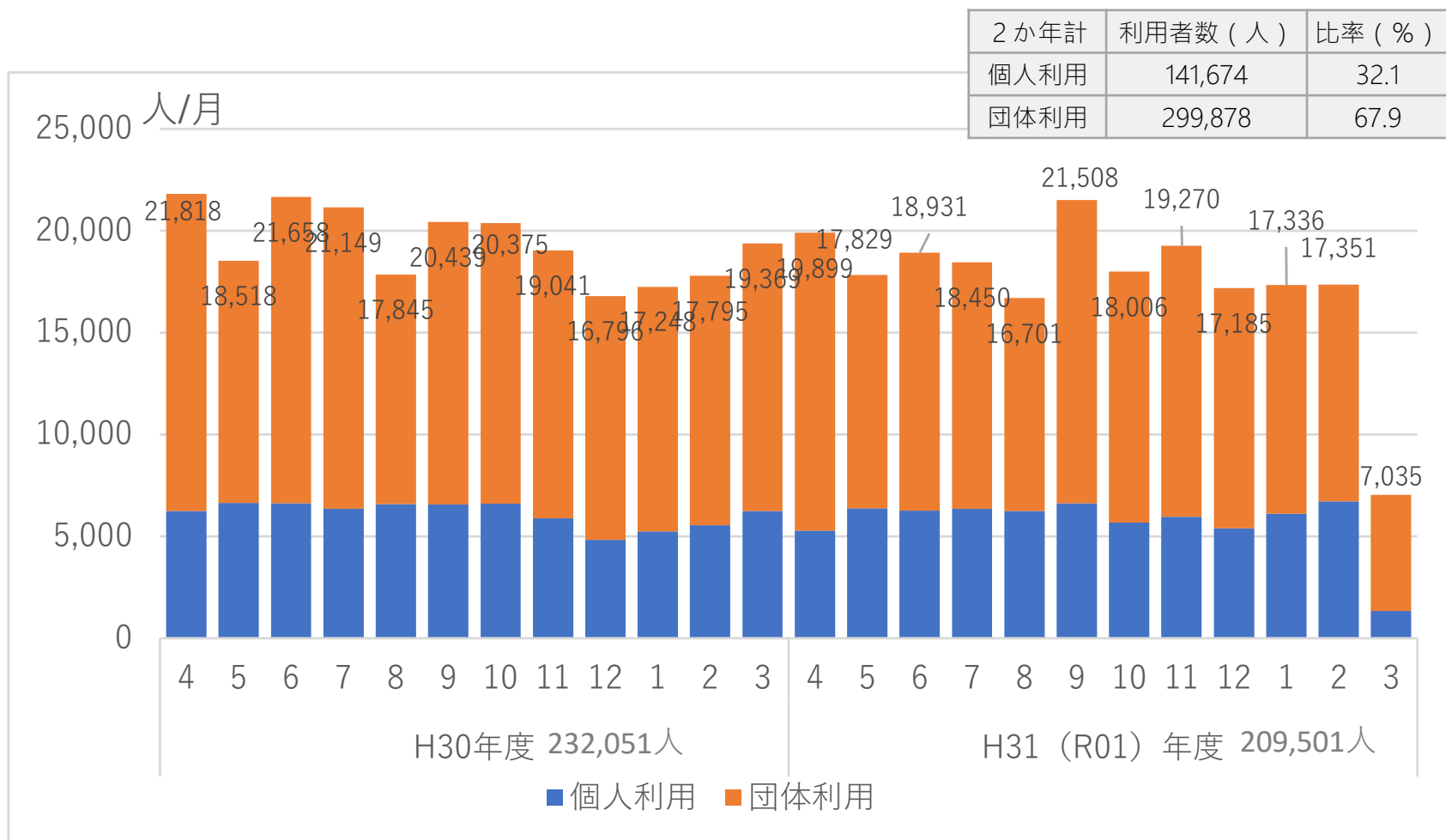


図 市民体育館の月別利用者数 (平成30年度、平成31年度)

2. 市民会館・市民体育館の利用状況

(3) 市民体育館の利用状況 (②利用施設)

- ▶ 市民体育館の利用施設をみると、競技場、トレーニングルームの利用が最も多く約2割占め、次いで、卓球場、剣道場、柔道場の順となっている。
- ▶ 一方、会議室の利用者が非常に少なく、体育館独自の会議室の必要性は低いと推察される。
- ▶ 各施設の個人、団体別利用をみると、トレーニングルーム以外については、団体利用が多くなっているが、卓球場や弓道場での個人利用が比較的多いことが特徴的となっている。これらは、各競技の大会開催や普段の練習場所の確保等の面からの特徴と推察される。

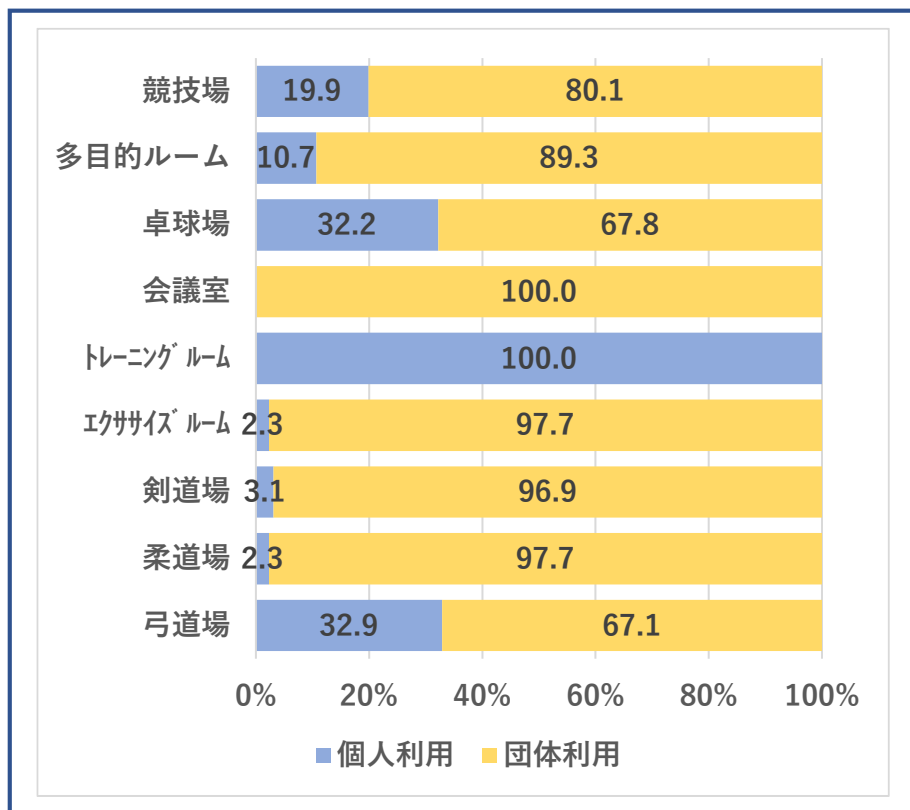
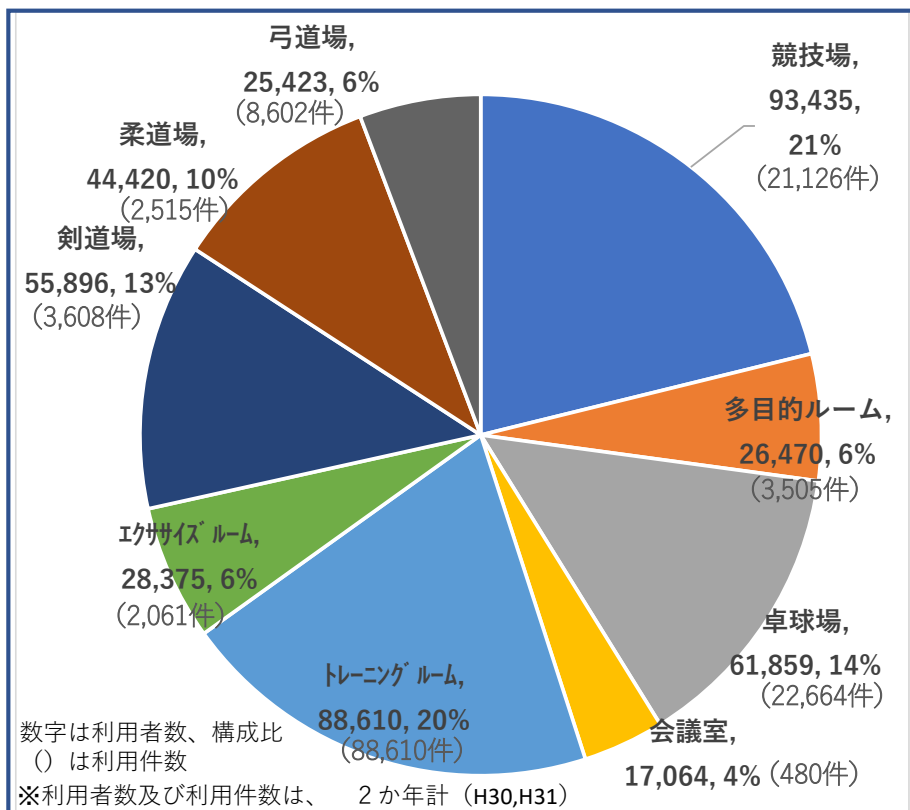


図 市民体育館利用者の利用施設の内訳 (施設別利用者数：左 個人・団体利用別構成比：右)

3. 市民会館・市民体育館の複合化にむけて

(1) 新施設の諸室の考え方について

① 利用状況から見た考察

(施設の利用状況を考慮した方向性)

- ・ 市民会館では、現在の利用状況から見た場合は、建設当初に結婚式場として使用していたバックヤードが不要なことやホールの客席規模の縮小、会議室数の削減等が考えられます。
- ・ 市民体育館については、現在、実施可能な競技種目・規模を維持することを前提に、会議室の廃止(⇒市民会館への統合)、複数保有するロッカー室、シャワー室等の適正化等が考えられます。

これらにより、複合化による重複機能の統合、利用状況・敷地規模等に適合した施設の再整備を行います。

3. 市民会館・市民体育館の複合化にむけて

(1) 新施設の諸室の考え方について

② 公共施設等マネジメント戦略

●市では、公共施設等マネジメント戦略の中で、公共施設の総量削減に向けて、以下の方針としている。

市民会館の方向性（目標）

- 市民文化系施設（市民会館、宗岡第二公民館）を対象に、19.2%の削減を実施。
- 宗岡第二公民館（1,144㎡）と合わせ、1,943㎡の施設面積を削減

市民体育館の方向性（目標）

- スポーツ・レクリエーション系施設について、7.9%の床面積の削減を実施
- 秋ヶ瀬スポーツセンター（887㎡）、武道館（209㎡）と合わせて、751㎡の削減が目標

(マネジメント戦略からみた方向性)

- ・ 利用状況との整合を図ったうえで、マネジメント戦略に沿った規模縮小、複合化の実現を目指します。

<参考> 志木市公共施設等マネジメント戦略（第1回委員会資料再掲）

【基本方針】

- ・ コンパクトな市域を生かして施設の集約や複合化、周辺自治体や民間との連携を行うことにより、サービスを低下させないように配慮しながら公共施設の総量を削減。

【基本目標】

- ・ 計画期間の30年間で、公共施設の総量（延床面積）の約2割を削減。

【個別方針】

<市民文化系施設>

- ・ 老朽化が進行し、耐震性能不足の市民会館は、安全性の確保を優先。市民ニーズを的確に把握し、集約化や複合化若しくは、縮小や廃止を検討。

<スポーツ・レクリエーション系施設>

- ・ 耐震性の不足の施設が多いことから、安全性の確保を優先。
また、利用圏域が広範囲となることから、周辺自治体や民間との連携も併せて検討。

3. 市民会館・市民体育館の複合化にむけて

(2) 新施設での諸室の確保イメージ (①市民会館)

- ▶ 市民会館は、開催されている催事の規模等を勘案して、ホールの規模縮小を図るほか、管理棟に設けられている会議室の数を利用状況を踏まえて半減させることを目標として規模の縮小を図ります。
- ▶ なお、供食設備の必要性については、市民会館での催事内容、会議室での開催内容等を踏まえて、引き続き検討を進めます。

		現施設の面積	施設利用状況	公共施設等マネジメント 戦略	諸室の削減の方向性	備考	想定削減面積				
ホール棟											
1 F	客席	467	利用の多い月は、ほぼ毎日利用	施設規模の縮小が必要	500人規模に縮小	実際のイベント時の客席の利用状況については、確認も必要	175				
	ホワイエ	406					152				
	舞台	345									
	楽屋1~3	71									
	3 F	照明室	42				ホールの年間利用者数は、 H29: 7.8万人 ホールの利用件数をみると H29: 222件 利用の多い月は、28件/月の利用と、ほぼ毎日利用されている	市民文化系施設(市民会館、宗岡第二公民館)を対象に、 19.2%の削減を実施。 宗岡第二公民館(1,144㎡)と合わせ、1,943㎡の削減が目標	客席規模の縮小、開催するイベント等を踏まえて客室以外の設備・諸室等については、今後、別途設計段階において規模・配置を調整する。		
		予備室	32								
		調光室	12								
		映写室	16								
		ミキサー室	12								
	地階	機械室	137								
倉庫		181									
変電室他		119									
その他共有部		1,122					200 ※2				
管理棟											
1 F	事務室	79	—	—	複合化後の必要面積を確保	事務室機能は、体育館との統合を前提に規模を検討する必要がある					
	旧喫茶室(厨房)	167	—	—	廃止も可						
	会議室101~104	221	会議での年間利用件数は、 H29: 10.2万人 H29は、年間3700件程度の利用があり、単純計算で1日10件程度の利用がある。	会議室数と利用件数、回転率を考えると、削減目標にむけて、室数の削減は可能と推察される。	削減目標にむけた会議室数の削減(半減程度)と宴会用の厨房設備等の維持の必要性についてを検討を進める。		100				
2 F	会議室201~205	430				195					
	備品室	96				43					
3 F	会議室301~302	148			67						
その他共有部		1,230					437 ※2				
							削減面積	1,369	㎡		
現在							5,334	㎡			
							削減後	3,965	㎡		
							削減率	26	%		

※1 客席数の削減比率に合わせて削減している。

※2 共有部については、諸室の面積の削減率に合わせて削減している。

※3 会議室数の半減(11部屋→6部屋)を想定して、会議室面積合計の5/11を削減面積とした。備品庫も同様(新施設での配置等は別途、要検討)

3. 市民会館・市民体育館の複合化にむけて

(2) 新施設での諸室の確保イメージ (②市民体育館)

- ▶ 市民体育館については、現在実施可能な競技種目を維持することを基本として、利用の少ない会議室の削減（市民会館で確保）を想定します。
- ▶ また、現在、分散配置されている更衣室やロッカー室などの統合可能性等を検討し、共同利用を進めることで、さらなる規模縮小を検討します。

		現施設の面積	利用状況	公共施設等マネジメント 戦略	諸室の削減の可能性	備考	想定削減面積	
体育館								
1 F 体育館棟	エントランスホール	337	—	スポーツ・レクリエーション系施設について、7.9%の床面積の削減を実施	複合化の中で整理	体育館は、市内の代替施設が乏しいことから、現在実施可能な競技種目規模を維持することを基本とする。分散配置されているロッカー、シャワー室の集約や稼働の低い会議室は統合対象とする	計上せず	
	トレーニングルーム	228	約5万人/年(H31/R1)		現状機能を維持		—	
	エクササイズルーム	194	約1.6万人/年		必要面積を確保		—	
	卓球場	300	約3.1万人/年(H31/R1)		※廃止 市民会館の中で確保		240	
	ロッカー室	100	—		必要面積を確保		—	
	シャワー室	23	—		現状機能を維持		—	
	更衣室	14	—		※配置は要検討		—	
	会議室(第一・第二)	240	利用は少ない(年間7~8千人)		現状機能を維持		—	
	事務室	77	—		※設計段階で規模縮小を検討		—	
	医務室	19	—		必要面積を確保		—	
1 F 武道館棟	剣道場	324	約2.7万人/年(H31/R1)	秋ヶ瀬スポーツセンター(887㎡)、武道館(209㎡)と合わせて、770㎡の削減が目標	現状機能を維持	—		
	ロッカー室	51	—		必要面積を確保	—		
	シャワー室	26	—		※配置は要検討	—		
2 F 体育館棟	競技場	1,512	約4.6万人/年(H31/R1)	体育館は、現在の機能を確保するためには、それぞれの競技に必要な所定の面積があるため、機能の維持を基本とする場合、削減面積が限定的	現状機能を維持	—		
	多目的ホール	302	約1.5万人/年(H31/R1)		※設計段階で規模縮小を検討	—		
	器具庫	216	—		必要面積を確保	—		
	保育室	22	—		現状機能を維持	—		
	役員室兼放送室	54	—		※配置は要検討	—		
2 F 武道館棟	柔道場	272	約2.3万人/年(H31/R1)	現状機能を維持	—			
	ロッカー室	40	—		※配置は要検討	—		
	シャワー室	20	—		※設計段階で規模縮小を検討	—		
3 F	観客席	336	—	現状機能を維持	—			
3 F 武道館棟	弓道場	241	約1.2万人/年		—			
	師範席	13	—		—			
	ロッカー室	10	—		※配置は要検討	—		
その他共有部		1,017					49 ※4	
想定削減面積計							289 ㎡	
現在		5,988 ㎡					削減後面積	5,699 ㎡
							削減率	5 %

※4 共有部については、諸室の面積の削減率に合わせて削減している。

3. 市民会館・市民体育館の複合化にむけて

(2) 新施設での諸室の確保イメージ (③複合化による効果)

- ▶ 市民会館については、ホールの縮小等により、現施設の規模から約25%の削減を目指す。
- ▶ 市民体育館については、競技可能な種目を維持することから、小規模の縮小にとどめ約5%の削減を目指す。
- ▶ 公共施設等マネジメント戦略による削減目標（約1500㎡）については、他施設での削減等を考えるとおおむね達成されると想定されます。

		現施設の面積(㎡)	想定削減面積(㎡)	削減後面積(㎡)	削減率(%)
市民会館	ホール棟	2,962	527	2,435	17.8
	管理棟	2,371	842	1,530	35.5
	市民会館計	5,334	1,369	3,965	25.7
市民体育館	体育館	5,988	289	5,699	4.8
2施設計		11,322	1,658	9,664	14.6

削減目標	現況面積(㎡)	目標削減率(%)	目標削減面積(㎡)
市民会館	5,333	19.2	1,024
市民体育館	5,988	7.9	473
市民会館+市民体育館	11,321		1,497

想定削減面積	1,658 ㎡
目標削減面積	1,497 ㎡
想定削減面積/目標削減面積	110.7 %

なお、本検討では、施設の統合にむけて、公共施設等マネジメント戦略、対象敷地の容積率等を踏まえて、床面積の試算をしたものであり、実際の諸室の確保については、新たに必要があると考えられる諸室を含め、検証が必要となります。

4. 次回の議題について

(1) 新施設の諸室のイメージ

- ▶ 現状の市民会館・市民体育館の使用頻度等を考慮しながら、必要な諸室を検討します。
- ▶ また、必要な諸室の機能や大きさなどについて検討します。
- ▶ 場合によっては、新たな機能の導入を検討します。

例えば、

- ・市民会館では

ホールの席数

ホールの客席形状や照明設備、音響設備、舞台機構などのホールに対する機能

会議室の数や大きさ、備える機能

- ・市民体育館では

アリーナの大きさや備える機能、客席数

他の専用競技（武道場や卓球場、トレーニング室など）の必要性や規模と機能

- ・さらに新たな機能を有する諸室

防災に特化した機能や新しい時代を見据えた新たな機能など

(2) 今後の検討委員会

- ▶ 第2回目の検討委員会は、当初1月下旬を予定していましたが、コロナ禍による緊急事態宣言の再発出により本日の3月24日になってしまいました。
- ▶ 今後の進捗について協議します。